



第41回

そばの花観察運動

# 入選作品発表

一般社団法人日本麺類業団体連合・全国麺類生活衛生同業組合連合会が主催する「第41回そばの花観察運動」は、全国の小学校の子どもたちが育てたそばの花をさまざまな表現で描いた写生画が、656作品寄せられました。

昨年12月20日、本間基史先生（関東甲信越静地区造形教育連合理事長）、杉山聡先生（全国小学校図画工作教育連盟前事務局長）による審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点、努力賞10点、日麺連賞10点、そして参加校・応募作品数を高めることを主旨として、今年も佳作100点が選ばれました。

協賛：製粉協会・一般財団法人製粉振興会

最優秀賞



福島県白河市立白河第一小学校

5年生

村田 楓牙

そばの花が生き生きと成長している様子が画面全体から伝わってくる生命力溢れる作品です。

葉や茎の様子をよく観察し、絵の具を混ぜては様々な緑色の表現を追求するなど、細かい範囲での明暗や色彩の感じをよく考えながら表したことが伝わってきました。背景も少し暗めの色合いで表すことで、そばの花の瑞々しい感じが表現できています。いたるところまで繊細な筆遣いが感じられ、ずっと見ていたくなる作品になっています。

優秀賞

山形県上市市立宮川小学校  
3年生

白田 愛香

そばの花が画面からはみ出すように伸び伸びとダイナミックに描かれ、圧倒される作品です。一方、そばの花の形や色は一つ一つ丁寧に描かれており、しっかり観察しながら表現していった姿が感じられました。

花びらの形は色鉛筆、おしべめしべはクレヨン、葉や茎は絵具というように、表したいものに併せて描画材を変えている点も感心しました。見る人を元気にさせてくれる作品となっています。



福井県美山啓明小学校 1年生

江上 莉帆

クレヨンを塗り込むほどぐいぐいと描いた様子が伝わり、見る人の気持ちを明るく元気にさせてくれる作品です。

そばの花を観察しながらどんどん手を動かしてかいていたのですね。絵を描くことを楽しみながらよく観察し活動した様子が浮かんできました。土色の畑の上に描いたことで、本当にそこで咲いているかのようなそばの花の美しさが伝わってきます。



努力賞



山形県上山市立宮川小学校 3年  
木村 沙帆



福島県白河市立白河第一小学校 5年  
青木 勇次郎



埼玉県富士見市立水谷小学校 4年  
舘石 美咲



東京都東和市立第九小学校 5年  
窪田 日向乃



福井県福井市宝永小学校 2年  
高井 心彩



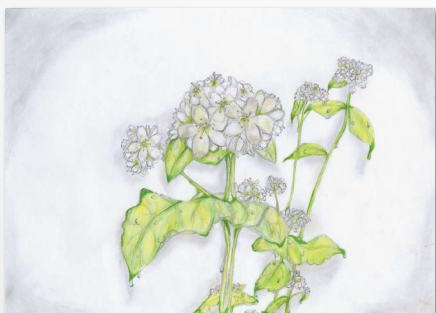
福井県福井市宝永小学校 2年  
高務 友香子



福井県福井市美山啓明小学校 6年  
川端 乃愛



福井県福井市美山啓明小学校 3年  
江上 璃咲



三重県大台町立三瀬谷小学校 6年  
村田 紅



長野県長野市立戸隠小学校 1年  
本多 由依





福井県福井市日之出小学校 1年  
西川 弘季



福井県福井市美山啓明小学校 5年  
河合 そら



福井県福井市美山啓明小学校 3年  
佐々木 新太



福井県あわら市細呂木小学校 2年  
藤井 幸翔



三重県大台町立三瀬谷小学校 6年  
森井 鈴



福井県福井市美山啓明小学校 4年  
土田 陽葵



大阪府堺市立登美丘西小学校 2年  
吉村 望代



兵庫県丹波市立青垣小学校 3年  
足立 衣菜



兵庫県丹波市立青垣小学校 3年  
加藤 里桜奈

## 佳作

宮城県	登米市立北方小学校	2年	阿部 元氣
	登米市立北方小学校	2年	尾形 霜磨
	登米市立北方小学校	2年	熊谷 結愛
	登米市立北方小学校	2年	佐藤 洸太
	登米市立北方小学校	2年	佐藤 陽向
	登米市立北方小学校	2年	菅原 陽莉
	登米市立北方小学校	2年	袋 琥太郎
秋田県	大館市立城西小学校	5年	田中 優
	大館市立城西小学校	3年	猪又 光哲
	大館市立城西小学校	2年	渡邊 里音
山形県	上山市立宮川小学校	3年	井上 優翔
	上山市立宮川小学校	3年	遠藤 羽留
	上山市立宮川小学校	3年	北澤 歩佳
	上山市立宮川小学校	3年	木村 雪音
	上山市立宮川小学校	3年	白田 夢香
	上山市立宮川小学校	3年	山川 晴駆
福島県	白河市立白河第一小学校	5年	秋山 愛実
	白河市立白河第一小学校	5年	石井 茉花
	白河市立白河第一小学校	5年	遠藤 実夢
	白河市立白河第一小学校	5年	小野 大地
	白河市立白河第一小学校	5年	佐藤 凜奈
	白河市立白河第一小学校	5年	鈴木 小陽
	白河市立白河第一小学校	5年	棚瀬 友衣
	白河市立白河第一小学校	5年	永山 葵
	白河市立白河第一小学校	5年	牧 穂乃果
	白河市立白河第一小学校	5年	和知 綾乃
埼玉県	富士見市立水谷小学校	1年	館石 康佑
	墨田区立小梅小学校	5年	高宮 聡太
東京都	葛飾区立葛飾小学校	3年	大貫 透麻
	葛飾区立葛飾小学校	3年	磯部 華帆
	葛飾区立葛飾小学校	3年	加藤 礼椰
	葛飾区立葛飾小学校	3年	木下 怜
	葛飾区立葛飾小学校	3年	白川 湊
	葛飾区立葛飾小学校	3年	原島 拓杜
	葛飾区立葛飾小学校	3年	原島 拓杜

東京都	葛飾区立葛飾小学校	3年	伏 里緒子
	江戸川区立南葛西第二小学校	2年	石関 琥太郎
	江戸川区立南葛西第二小学校	2年	田村 四季
	江戸川区立南葛西第二小学校	2年	松田 晴
	江戸川区立南葛西第二小学校	2年	吉田 楓
	大田区立大森第三小学校	5年	国吉 蒼海
	東大和市立第一小学校	2年	秋葉 千歳
	東大和市立第九小学校	6年	鈴木 天音
	東大和市立第九小学校	5年	前田 俊景
	東大和市立第九小学校	3年	窪田 丈太郎
	東大和市立第九小学校	2年	敦賀 博哉
	東大和市立第九小学校	1年	山川 昊士朗
	私立晃華学園小学校	4年	大島 有紗
	私立成蹊小学校	1年	大島 有真
	福井市日之出小学校	1年	大久保 沙南
福井県	福井市日之出小学校	1年	関根 克仁
	福井市日之出小学校	1年	土田 結人
	福井市日之出小学校	1年	土肥 那奈美
	福井市日之出小学校	1年	服部 佳奈
	福井市日之出小学校	1年	久野 叶泰
	福井市日之出小学校	1年	花山 悠真
	福井市日之出小学校	1年	安本 素良
	福井市日之出小学校	1年	山元 菜生
	福井市日之出小学校	1年	吉田 涼真
	福井市宝永小学校	2年	大村 明生
	福井市宝永小学校	2年	檜木 梨沙
	福井市宝永小学校	2年	谷口 将平
	福井市宝永小学校	2年	田村 優風
	福井市宝永小学校	2年	畑 蓮太郎
	福井市宝永小学校	2年	安本 美羽
福井県	福井市美山啓明小学校	6年	家接 滉大
	福井市美山啓明小学校	6年	佐々木とわの
	福井市美山啓明小学校	6年	山本 哲平
	福井市美山啓明小学校	5年	江上 翔毅
	福井市美山啓明小学校	5年	江上 翔毅

福井県	福井市美山啓明小学校	5年	横山 悠大
	福井市美山啓明小学校	4年	川端 愛未
	福井市美山啓明小学校	3年	家接 寛大
	福井市美山啓明小学校	3年	高松 陽大
	福井市美山啓明小学校	3年	道坂 皓太郎
	福井市美山啓明小学校	3年	廣田 直輝
	福井市美山啓明小学校	3年	三原 信
	福井市美山啓明小学校	2年	佐々木 千織
	福井市美山啓明小学校	2年	長谷川 七海
	あわら市細呂木小学校	2年	小林 俐仁
	あわら市細呂木小学校	2年	今藤 實子
	あわら市細呂木小学校	2年	佐藤 裕絆
	あわら市細呂木小学校	2年	細川 涼乃
	あわら市細呂木小学校	2年	毛利 向來
	あわら市細呂木小学校	2年	毛利 向來
長野県	長野市立戸隠小学校	1年	小林 詩
	長野市立戸隠小学校	1年	山極 葵月
三重県	大台町立三瀬谷小学校	6年	上村 唯菜
	大台町立三瀬谷小学校	6年	中村 玲音
	大台町立三瀬谷小学校	6年	西山 望冬
	大台町立三瀬谷小学校	6年	宮原 平樹
大阪府	堺市立登美丘西小学校	3年	樹井 崇仁
	堺市立登美丘西小学校	3年	樹井 崇仁
兵庫県	丹波市立青垣小学校	3年	大木 千尋
	丹波市立青垣小学校	3年	足立 杏奈
	丹波市立青垣小学校	3年	足立 政仁
	丹波市立青垣小学校	3年	菅沼 陽翔
	丹波市立青垣小学校	3年	田中 陽菜
	丹波市立青垣小学校	3年	平田 優妃
	丹波市立青垣小学校	3年	若竹 幹太

## 「第41回そばの花観察運動」作品審査総評

関東甲信越静地区造形教育連合 元理事長 本間 基史

第41回そばの花観察運動に今年は656点の作品が集まりました。北は宮城県から南は兵庫県まで12の都府県からの応募がありました。

本作品展の大きな特徴は希望する学校にそばの花の種を配り、子供たちが、水やりをし、精魂を込めて育てた自分のそばの花を描くことにあります。自分たちで育てたそばの花をじっくり観察することは特別な意味があります。入選作品は、そばの花を主役に、本来の趣旨である観察画として優れたものを選ばせていただきました。繊細なそばの花、葉、茎に目を向け、細かい色の変化、花や葉の形状を捉え、表現した作品です。

本作品は子供の視点でそばの花を大きく描くのか、小さく描くのか、まわりの様子、背景をどのように取り組むのか自己決定して、構図も自分で決めて描いています。そして、

実物を観察しながら描いています。この子は小さい花が沢山咲いていることに感動したんだ。この子は茎の色の变化に興味を持って表現したんだ。葉っぱの葉脈が面白かったんだと、素直に表現された作品からは、子供の思いが伝わってきます。これからの教育は図画工作科だけではなく、すべての学習において、自己調整力が求められます。「そばの花観察運動」は自己調整力の主要素である、動機づけ（モチベーション）において与えられた花を描くのではなく、自分たちで育てたそばの花を描くわけですから、前向きに観察画を描く動機づけになっています。また自己調整力の要素としての学習方略（ストラテジー）では、自ら画材や表現、構図を選択し工夫する力が培われています。

造形活動においては特に一人一人の表現が尊重されなければいけません。観察画でも、子供が興味を持ったのが、花や葉や茎の色な

のか、形なのか、花の咲く情景なのか指導者は捉える必要があります。決して、指導者のイメージの色調や混色方法やタッチを押し付けてはいけません。そばの花とじっくり向き合って、感じた色や形を自由に描かせてあげる環境を、指導者の方が保証するように引き続きお願いします。最近絵を描くときに安易にタブレットで画像を検索し、活用する場面が見受けられます。

そばの花を育てるには、水やりや雑草を抜いたり、間引いたり土に触れ、か細い花を大切に育てなければいけません。この体験が絵を描く上でも大切になっています。どの作品からも、花を見つめる子供たちの優しい視線が伝わってきました。豊かな表現活動の一助となっています。次年度も、より多くの学校が参加してくれることを願います。